

## 研究論文

保育所における「食」に関する現状と  
栄養士への要望についての研究

西尾 久美子・佐藤 理紗子・小塚 美由記\*・杉村 留美子

(2012年12月26日受稿)

**抄録：** 保育所における子どもの健康支援，子育て支援の推進，さらに食育の推進が組み込まれる状況のなか，保育環境での栄養士の役割を検討することを目的に保育士へのアンケートを実施した．対象は乳児保育担当保育士等研修会に参加した北海道内の保育士 165 名である．研修時に配布，研修終了日に回収した．148 名から回答が得られ，回収率は 89.6%であった．調査内容は，①勤務先保育園の場所，②保育園の経営形態，③勤続年数，④保育園における管理栄養士または栄養士の配置状況と必要性，⑤保育園での食教育の取り組み内容，⑥管理栄養士・栄養士への要望または意見についてなどの項目からなる．結果は，管理栄養士・栄養士の配置がある園での食に関する教育の取り組みが多かった．経営形態別による取り組みの違いには大きな差が見られなかった．保育士の経験年数による要望の差では，5 年以下の保育士は「給食・献立の充実」と「子どもや保護者との関わり」を望み，勤続年数が長くなるにつれ，「他職種との連携」を望むものが多くなっている．これらの結果から，栄養士に対する要望と評価，給食に対する要望と評価を考察し，保育園における栄養士の役割を検討した．

## I. 緒 言

近年，乳幼児期からの食の重要性が指摘され，保育園においても積極的な食育の取り組みが行われている．保育所における食育に関する指針<sup>1)</sup>や食育基本法<sup>2)</sup>を踏まえ，2009年には，保育所における保育指針<sup>3)</sup>が改定され，保育の内容の一環として「食育」が位置付けられた．高橋・川田は，乳幼児期における就学前保育の活動においては，必ずしもそのねらいや内容は明確化されておらず，各地域独自の計画が立てられているために発達や学習の連続性をふまえた一貫性のある内容になっていない，と指摘する<sup>4)</sup>．保育指針においても，「施設長の責任のもと，保育士，調理員，栄養士，看護師などの全職員が協力し，各保育所の創意工夫のもとに食育を推進していくことが求められる」，と明記されているように，職種間の連携と，それぞれの職種に求められる役割，特に食

育においては栄養士の必要性を再認識する必要があるが，栄養士不在の保育所があることが現状である．

そこで本研究では，保育環境における栄養士の役割を考え，保育園に栄養士が必要な理由を保育士の要望を踏まえて検討した．

## II. 調査方法

対象は，北海道内に勤務する保育士165名である．2010年9月と11月に行われた「乳児保育担当保育士等研修」の参加者に依頼し，質問紙調査による回答を得た．調査は無記名とし，調査用紙配布時に研究目的，倫理的配慮を説明し同意を得た．回収率は89.6%であった．

調査内容は，①勤務先保育園の場所，②保育園の経営形態，③勤続年数，④園児の受け入れ人数，⑤保育園における管理栄養士または栄養士の配

置, ⑥保育園における食教育の取り組み内容, ⑦栄養士に望むこと, ⑧栄養士に対する要望または意見についての8項目からなる。

統計的な解析は, エクセル統計第3版を用いた。

### Ⅲ. 結 果

#### 1. 本研究における栄養士配置の現状

本研究の対象保育園165箇所において, 栄養士の配置があると回答した園は, 67.8%であった(図1)。32.2%は栄養士の配置がない現状である。保育園を経営形態別にみると, 公立が30.2%, 私立は65.8%, その他もしくは不明の回答は4%であった(図2)。

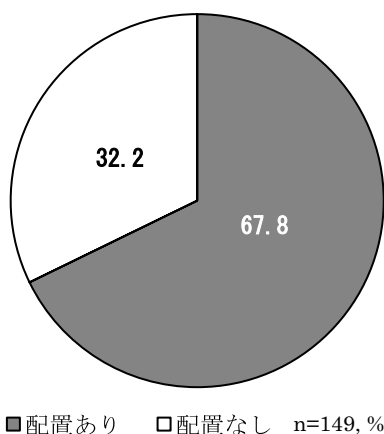


図1. 保育園における栄養士配置の有無

栄養士の配置については, 89.3%が“配置は必要”と回答している。それらを配置の有無別でみると, 実際に配置のある園では, 97.0%が“配置を必要”としており, 実際に配置のない86.0%に比べても高値であった(表1)。“配置は不要”の回答は, 配置のある園で3.0%, 配置なしの園では4.7%であった。これらの数値は, 実際に自身の働く園に栄養士の配置があり, 栄養士との関わりがある保育士が栄養士の配置をより強く望む結果となった。

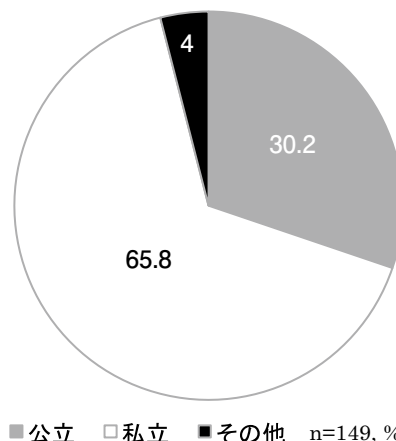


図2. 保育園の経営形態

表1 栄養士配置の希望と実際の配置との関係

	(%)	
	栄養士の配置あり	栄養士の配置なし
配置は必要である	97.0	86.0
配置は不要である	3.0	4.7

n=149,  $\chi^2$  test, P=0.414

#### 2. 食教育に対する取り組みの違い

表2には, 栄養士の配置の有無による保育園での食教育の取り組みの違いを示す。給食便りを定期的に配布しているかについては, 栄養士の配置ありの園では93.1%が配布していると回答し, 栄養士の配置なしの園では83.3%であった。同様に, 野菜を育てているかについての問いでは配置ありが55.4%, 配置なしが52.1%であり, 季節の行事に合わせて行事食を行うかどうかについては配置ありが29.7%, 配置なしが18.8%であった。毎日の給食を子供や保護者らが実際にみられるように給食の展示を行っているかについては配置ありが86.1%, 配置なしが83.3%であり, レシピの配布に関しては, 配置ありが35.6%, 配置なしが29.2%であった。園児に対して食教育を行っているかについては配置ありが91.1%, 配置なしについては70.8%と有意な違いがみられた ( $p < 0.05$ )。保護者に対しての給食試食会の実施では配置ありが90.1%, 配置なしは75.0%であった。簡単クッキング教室を開催している園は配置あり

表2 栄養士の配置の有無による保育園での取り組み

	栄養士		p 値
	配置あり	配置なし	
給食だよりの配布	93.1	83.3	0.99
野菜を育てる	55.4	52.1	0.76
行事食	29.7	18.8	0.28
給食の展示	86.1	83.3	0.72
レシピの配布	35.6	29.2	0.72
食教育	91.1	70.8	<0.05
試食会	90.1	75.0	0.28
簡単クッキング教室	46.5	33.3	0.31
食事相談	26.7	8.2	<0.05
その他	13.9	8.3	0.45

n=149, t-test,

が46.5%，配置なしは33.3%であり，保護者からの食事相談を受けている園は配置ありで26.7%，配置なしは8.2%と栄養士の配置がある園において有意に高い結果となった（ $p < 0.05$ ）。いずれの回答においても栄養士の配置がある園において配置のない園よりも食に関する各種の取り組みが多い結果となり，特に食教育や食事相談において栄養士の配置がない園での取り組みが有意に少ない結果となった。

保育園の経営形態は公立と私立に分けられるが，食教育に対する取り組みの違いについて経営形態別に検討を行った（図3）。同様に，給食だよりの配布，野菜を育てる，行事食の有無，給食の展示，レシピの配布，食教育の実施，試食会の実施，簡単クッキング教室の開催，食事相談の実施など9項目について回答を求めたが，公立，私立による差はみられず，経営形態による食教育の違いはないという結果であった。

### 3. 保育士から栄養士に望むこと

保育士から栄養士に望むこととして，保育士の勤務年数別に検討を行った（図4）。勤務年数は，0～5年，6～10年，11年以上の3区分とし，栄

養士に対し望むこととして給食や献立は充実しているか，食に対する情報提供は行っているか，子どもや保護者との関わりがあるか，保育士など他職種との連携はとれているかの4項目について回答を得た。その結果，勤務年数の区分によって回答に大きなばらつきがみられ，有意な差は得られなかったが，給食や献立の充実では，0～5年が51.7%，6～10年は38.7%，11年以上では53.6%であった。食に関する情報提供では，同様に18.0%，22.6%，25.0%，子供や保護者との関わりでは，44.9%，29.0%，35.7%，他職種との連携では，20.2%，41.9%，42.9%となった。

### 4. 栄養士に対する要望

栄養士に対する要望として，保育士からの栄養士に対する要望や意見をまとめた。質問紙の中では最後に位置する設問であり，フリー記述による回答を得た。これらの結果をおおまかに分類し，栄養士に対する要望，栄養士に対する評価，給食に対する評価，給食に対する要望の4項とした（表3）。栄養士に対する要望では，保護者と保育者との連携を密にとってもらいたい，栄養士が母親と直接話し栄養指導もしながら進めてほしいなど，

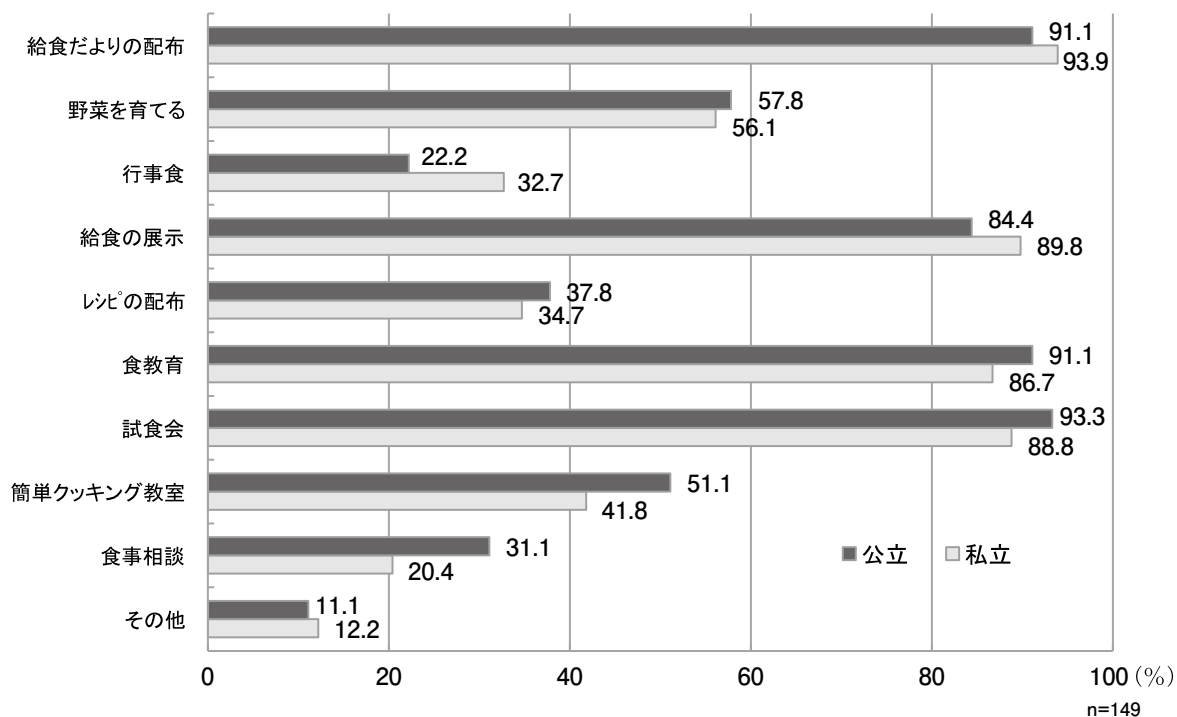


図3. 保育園の経営形態別にみる園での取り組み

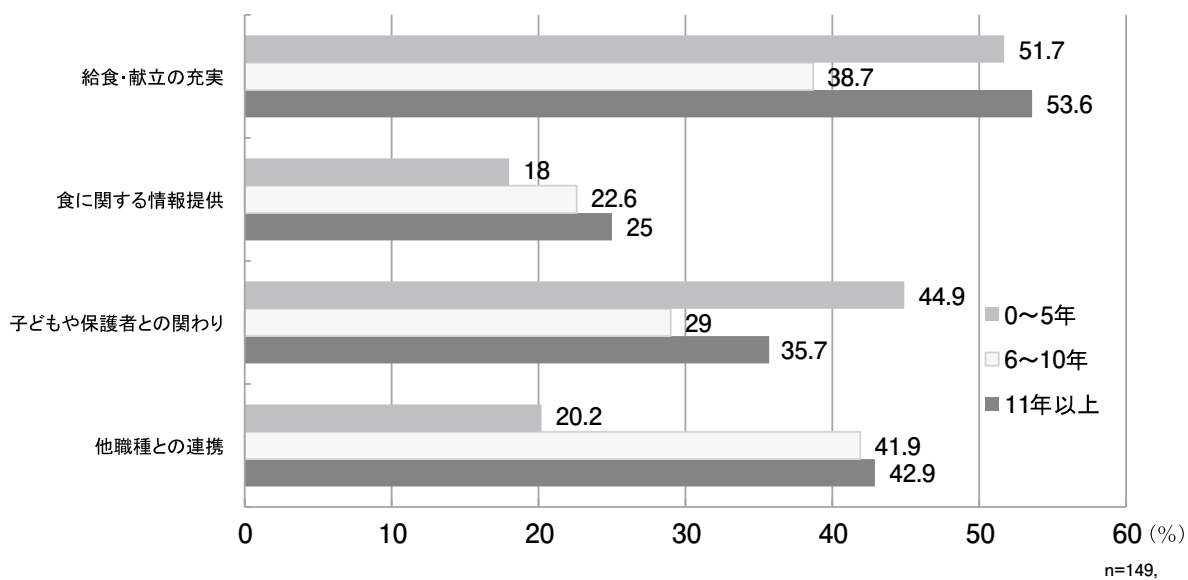


図4. 保育士の勤続年数別にみる栄養士に望むこと

表3 栄養士に対する要望や意見（フリー記述から）

## [栄養士に対する要望]

- ・保護者と保育者との連携を密にとってもらいたい。栄養面のみならず、子どもの成長についても学んで欲しい。
- ・専門的な立場からアドバイスをどんどんして言ってほしい。
- ・保育士など違う職種間で働くことは大変と思うが、1～3年で辞めないでがんばってほしい。続けて働くと栄養士として子ども達にしてあげたいことが見えてくるのではないと思う。
- ・離乳食は母親と栄養士の間に保育士が入って進めていくが、なかなか話が進まずに離乳食も進まないことが多い。栄養士が母親と直接話し、栄養指導もしながら進めてほしい。
- ・専属栄養士がいないので、それぞれの園に専属栄養士を配置できるように国で対応してほしいと思う。
- ・園児個々の対応をもっと強化してほしい。園児全員が前提のことが多く、一人だけこうしてほしいが通らない。
- ・常在を希望しているが、人員減の現状では難しい。兼務しながら、当市の栄養士は色々な事に取り組んでいる。
- ・食に対する考えや保護者への対応など栄養士と保育士の会話する場があると良いと思う。

## [栄養士に対する評価]

- ・子ども達のことをしっかり考えて保育士に適切な意見を伝えてくれるので、仕事がスムーズに進行している。
- ・大変心強い栄養士のため、このような専門の先生が増えてくれたらいいと思う。
- ・乳児保育室の隣に給食室があるため、随時乳児の様子を確認してくれたり、母親ともよく話をしてくれ、親も含む個人をよく理解した献立を作ってくれている。
- ・栄養士と保育士の連携は充分とれ、要望もとり入れてもらえるので特に問題はない。
- ・各園に栄養士がいるのではなく、役所に1名しかいない現状である。役所は栄養士業務以外の仕事もあるので、栄養士専門の仕事をしてくれるともっと充実してくると思う。1名のみのため大変そう。

## [給食に対する評価]

- ・塩分控えめの献立はいいことだと思う。
- ・変わったメニュー（洋食）が多く、味もいまいちなことが多い。和食をメインにした美味しいメニューを望む。

## [給食に関する要望]

- ・子どもの食べる時間に合わせて給食を出してほしい。その子にあった離乳食の要望にこたえて欲しい。
- ・メニューがありがたになりがちなので、様々な食材を食べられるようにして欲しい。
- ・おやつの手作りを増やすようにしてほしい。
- ・頼まないとスプーンや小皿をくれない。時間のずれもNG。
- ・季節より早くぶどうやメロン等の食材が献立に出てくる。値段が高い時期なのに…と思うことがよくある。

三者の連携を希望する要望があった。栄養士に対する評価では、子ども達のことをしっかり考えて保育士に適切な意見を伝えてくれる、栄養士と保育士の連携は充分とれており要望もとり入れてもらえるので問題はない、母親ともよく話をしてくれ、親を含む個人をよく理解してくれているという評価があった。一方、園に専任の栄養士がいない、役所に1名しかいないなど栄養士の不在または不足を指摘する回答もあった。給食に対する評価では、塩分控えめである献立であり園児にとっても良い、洋食が多いので和食をメインにしたメニューを望むなどの評価があった。給食に関する要望では、その子にあった離乳食の要望に応えてほしい、様々な食材を食べられるような献立にしてほしい、手作りおやつを増やすようにしてほしいなど多岐にわたっていた。

## IV. 考 察

### 1. 栄養士不在の現状について

保育所での栄養士配置状況について、一般社団

法人日本保育園保健協議会が行った全国調査では、自園に栄養士が配置されている保育所は約42%であった。仙台市では2012年3月現在、129箇所の認可保育所すべてに栄養士が1名以上配置されている。札幌市認可保育所は2008年で50.5%であった。保育所は小規模給食施設などとして保健所への届け出と食品衛生責任者を配置する必要があり、栄養士や調理師の有資格者がいる場合はその者が食品衛生責任者となっていることが推測できる。しかし食品衛生責任者は講習を受ければ誰でも取得できるもので、園長や施設長などが取得している場合も多い。また、調理を保育士が行うことは問題なく、その場合担当する保育士は毎月検便をしている必要がある。しかし、年々増加傾向にあるノロウイルスなどの食中毒及び感染症の正しい知識と予防対策などの理解や、食品取扱者の衛生管理にも留意されなければならない専門的な知識を有する栄養士の役割は重要と考える。

## 2. 保育園における栄養士の役割

栄養士の必置が集団保育施設では定められていないため、栄養士がいる施設においても業務としては、食事提供が主なものである。食生活や栄養の専門家として保育園児の食生活・栄養の管理及び教育に従事することを一般化させることは容易なことではない。しかし、今回の調査で栄養士の配置は必要と回答した保育士が多かったことは、栄養士の配置の有無により取り組みの実態に差が見られたことで、栄養士の役割が明確であり、著者らが2009年5月にE市の認可保育園5箇所と認定幼稚園1箇所の園児保護者に行ったアンケート調査結果<sup>5)</sup>からも、栄養士が行っている取り組みに対し「現状どおり続けて欲しい」と「もっと回数を増やして欲しい」をあわせると90%であったことは保育士、保護者双方から栄養士の役割が認識されている結果ととらえることができる。保育士の勤続年数の差による要望の違いでは、「子どもや保護者との関わり」を栄養士に望むのは勤続年数5年以下が一番多く、自身の関わりを含め栄養士にも同じように望みながら園児や保護者に向き合っていることが伺える。栄養士も子どもたちの食べる様子を直接見て確認し、見守り、保育士や調理員などと共に食生活の面から子育てをする役割があり、子どもたちの現状を把握・分析し個別支援の必要性を考慮する。個別支援が必要と思われる項目は、アレルギー、肥満、やせ、好き嫌い、小食、便秘、咀嚼・嚥下、病児などがある。これら園児個々の食事の問題点に対応し、成長・発育に応じた栄養管理をする必要がある。そのためには保護者との面談で、家庭の様子や保護者の考えを聞きながら必要な関わりを持ち進めなければならない。

## 3. 食育の必要性

2009年4月から施行された新保育所保育指針の第5章「健康及び安全」で、食育の推進が盛り込まれた。今までも食を通して子ども自らの健康づくりを進めてきているが、より積極的にというこ

とである。工藤の調査<sup>6)</sup>では保育所内で食育についての話し合いをどの職種とされているかでは、59%が保育士と栄養士と回答し、食育の内容についても栄養士に相談していると回答している。今回の調査で、勤続年数が長いほど他職種との連携を望んでおり、工藤の報告<sup>6)</sup>でも保育士と栄養士が食育に関するコミュニケーションを密に連携すれば、食育に関する方向性が可能と成り得るとされている。また、食育に対してどのような捉え方をして対応をするかの点で、「好き嫌い」のような個人的な対応が要求されることに対し、保育士は「美味しそうに食べて見せる」、一方栄養士は「調理法を工夫する」で、それぞれの特質を生かした体制の利点が発揮されているという報告は興味深いものである。毎日の食事の提供は、食育の場となり生きた教材にもなる。栄養士がいつでも園内にいてタイミングよく食事の「箸の持ち方」、「行儀」を取り上げたり、「食材」について会話することで、幅広い食品選択の実践を期待でき、子ども自らの健康づくりを進めることになる。さらに、幼児期の食育は、保護者の食習慣や食事に対する意識、指導性が大きく影響し、生涯の健康づくりを左右することになりかねないことを認識し、積極的に保護者に関わりを持つことが求められる。これらはアンケートのフリー記述にもあるように、続けて働くことで見えてくることであり栄養士自身の専門職としての自覚に負うところである。

## 4. 栄養士配置を増やす取り組み

保育所設置認可等の基準に関する指針<sup>3)</sup>では、職員の配置に「調理員等で調理員として2人以上の常勤を置くこと、栄養士の配置についても考慮すること」となっているが、積極的な姿勢を問うものではない。生活習慣病の多くが幼児期からの食習慣に原因の一端があり、現代の厳しい社会状況の中で、子育ての年代が健康的な食生活を維持することの困難さが推測できる。また、多くの食品、世界中の食材を手に入れることができる環境

では偏食傾向も容易にすすみ、1600種にも及ぶ加工品の利用、依存はさらに広がることは否めない。さらに増加傾向にあるアレルギー児への対応など個々に栄養管理が必要なケースでは、管理栄養士による関わりは必須といえる。栄養の専門家である栄養士は健康増進法施行以来、国民の健康維持増進のためあらゆるフィールドで積極的な関わりがもたれている。保育所においても他の職種や保護者から信頼され役割が認識されることで、栄養士必置の法制化へとつながることを期待するものである。

## 文 献

- 1) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局：楽しく食べる子どもに－保育所における食育に関する指針－.2004.
- 2) 内閣府：食育基本法. 2005.
- 3) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局：保育所における保育指針. 2009.
- 4) 高橋美保, 川田容子：保育者の食の認識からみる食育推進の課題－保育士養成課程におけるカリキュラムを通して－. 白鷗大学教育学部論集 4, (2)：351-370, 2010.
- 5) 西尾久美子, 小塚美由記, 佐藤理紗子：保育所における栄養士業務と保護者支援の検討. 日本未病システム学会誌, 16 (2)：396-400, 2010.
- 6) 工藤 隆子：保育所における食育に関する実態調査－大分県の保育従事者の食育意識について－. 別府大学短期大学部紀要, 23：71-81, 2004.
- 7) 木林悦子, 上野恭裕, 鏡森定信：集団保育施設（幼稚園・保育所）についての調査研究. 栄養学雑誌, 58 (1)：29-36, 2000.
- 8) 笠井隆司, 鈴木正之, 武井啓一, 渡邊賢礼, 向井美恵:幼児（保育園児）への味覚（五感）教育の取り組みとその評価－多職種の連携・協働による食育の推進－. 小児歯科学雑誌, 50 (2), 258-258, 2012.
- 9) 坂本裕子, 中島千恵, 浅野美登里, 落合利佳：地域における保育園との連携による食育実践に関する調査研究. 京都文教短期大学研究紀要, 49：23-31, 2010.
- 10) 坂本裕子, 中島千恵, 浅野美登里, 落合利佳：京都府南部の保育所における食育状況. 京都文教短期大学, 48：21-29, 2009.
- 11) 瀧日 滋野：人との関係性・心を育む食事場面, 食事場面における求心力の意識化. 保育学研究, 48 (2)：279-282, 2010.
- 12) 鈴木みゆき：子どもの食と生活リズム. 保育学研究, 48 (2)：282-284, 2010.
- 13) 林 昭志：食育と心理の関連を考える試み：子どもの発達における食の観点. 児童文化研究所所報, 30：77-88, 2008.
- 14) 佐藤洋子：食育を科学する, 子どもの体と心を培う食育について. 小児保健研究, 67 (2)：257-264, 2008.
- 15) 浅野 美登里, 坂本 裕子, 中島 千恵, 落合 利佳：保育士・栄養士をめざす学生の食育実践力, 連携力を培う試み. 京都文教短期大学研究紀要, 49：169-175, 2010.
- 16) 入江 慶太：保育士養成校学生の食にかかわる意識調査－保育者との比較を通して－. 川崎医療短期大学紀要, 28：71-75, 2008.
- 17) 木林 美由紀, 大橋 健治, 森下 真行, 奥田 豊子：幼児の咀嚼と食行動および生活行動との関連性. 口腔衛生学会雑誌, 54 (5)：550-557, 2004.

## The Present Status of Food in the Nursery School and Demand for Dietitian

NISHIO Kumiko, SATO Risako, KOZUKA Miyuki and SUGIMURA Rumiko

**Abstract:** We conducted a questionnaire survey of nursery teachers in order to investigate the roles that dietitians should play in nursery school settings under the current circumstances in which child health and parenting support, as well as food and nutrition education, at nursery schools are being promoted. We distributed the questionnaire to 165 nursery teachers in Hokkaido who attended a training session for nursery teachers in charge of infants during the session and collected responses from 148 (89.6%) teachers on the last day of the session. The question items were about:

- i) the location of the nursery school they work for;
- ii) the form of management of the nursery school;
- iii) their years of service;
- iv) the presence of, and need for, a dietitian or a registered dietitian at the nursery school;
- v) what food and nutrition education is provided at the nursery school;
- vi) requests to, or opinions about, dietitians or registered dietitians.

The results showed that, for all nine items relating to food and nutrition education, a higher percentage of nursery schools with a dietitian or a registered dietitian conducted them than nursery schools without a dietitian. The form of management did not make a significant difference. Many nursery teachers with five or less years of service were found to expect dietitians to “improve the quality and menu of school lunch” and “be involved with children and parents”, while the longer their years of service were, the more nursery teachers were found to expect dietitians to “collaborate with other professionals”. Based on these results, we discussed requests for, and the evaluation of, dietitians and school lunch, and examined the roles that dietitians should play at nursery schools.